

平成 27 年度  
供給計画の概要

平成 27 年 3 月

九州電力株式会社

「平成27年度供給計画」は、

- ・ 原子力発電所の再稼働に関する見通しが不透明であること
- ・ 地球温暖化対策も含めた国のエネルギー政策の詳細見通しが不透明であること

から、昨年と同様、需給バランスなど具体的な計画を策定できない箇所は、「未定」の記載で届け出ました。

〔電力販売の実績と見通し〕

項目	年度								
	H 25 (実績)	H 26 (推実)	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	H 36	年平均 伸び率 36/25 (%)
販売電力量 (億 kWh)	844 (829)	814 (816)	819 (817)	814	816	823	829	861	0.2 (0.4)
最大電力 (万 kW)	1,583 (1,489)	1,471 (1,483)	1,478	1,473	1,477	1,488	1,498	1,552	0.2 (0.4)

(注1) ( ) は気温うるう補正後

(注2) 最大電力は夏季の送電端最大3日平均値

〔最大電力需給バランス〕

○ 平成 27 年度以降の見通しは「未定」。

項目	年度	
	H 25 (実績)	H 26 (推実)
需 要 (万 kW)	1,583	1,471
供 給 力 (万 kW)	1,660	1,686
供給予備力 (万 kW)	77	215
供給予備率 (%)	4.9	14.6

(注) 最大電力は夏季の送電端最大3日平均値

〔電源開発計画〕

区分	設備	発電所および ユニット	出力	工 期	
				着 工	運 開
工事中	水 力	新甲佐 <sup>1</sup>	7,200 kW	H24年 5 月	未 定
		新名音川 <sup>2</sup>	370 kW	H26年 9 月	H28年 6 月
	火力(LNG)	新大分3号系列(第4軸)	48万 kW	H25年 7 月	H28年 7 月
	火力(石炭)	松浦 2 号 <sup>3</sup>	100万 kW	H13年 3 月	H32年 6 月
着 工 準備中	火力(内燃力)	豊玉 6 号 <sup>3</sup>	8,000 kW		H30年 6 月
		新知名 <sup>4</sup>	4,500 kW		H32年 6 月 <sup>5</sup>
	原子力	川内原子力 3 号	159万 kW	未 定	未 定
	地 熱	大岳 <sup>6</sup>	14,500 kW [+2,000kW]	H29年 9 月	H31年 12 月

1. 新甲佐発電所新設に関連して、既設新甲佐発電所(3,900kW)を廃止(時期未定)

2. 新名音川発電所新設に関連して、既設名音川発電所(65kW)を廃止(H26年10月)

3. 平成26年度に実施した火力入札における落札電源

4. 新知名は火力入札ガイドライン上の入札対象電源

5. 新知名の運開年月は、入札募集における供給開始期限を記載

6. 大岳発電所は発電設備の更新( )は出力増分)

## 〔電源廃止計画〕

設 備	発電所および ユニット	出 力	実施時期
原子力	玄海1号	55.9万kW	H27年4月
火力(石油)	唐津2・3号	37.5万kW、50万kW	H27年6月

## 〔平成27年度において実施する入札による火力電源調達計画〕

	項 目	内 容
離島 (沖永良部島)	募集規模	平成32年6月までに、鹿児島県沖永良部島(離島)に供給開始できる電源を対象に、合計で4,500kWを募集
	調達期間	原則15年間 (10~30年間の範囲で選択可能)

(注)新知名発電所発電設備の更新により自社応札予定

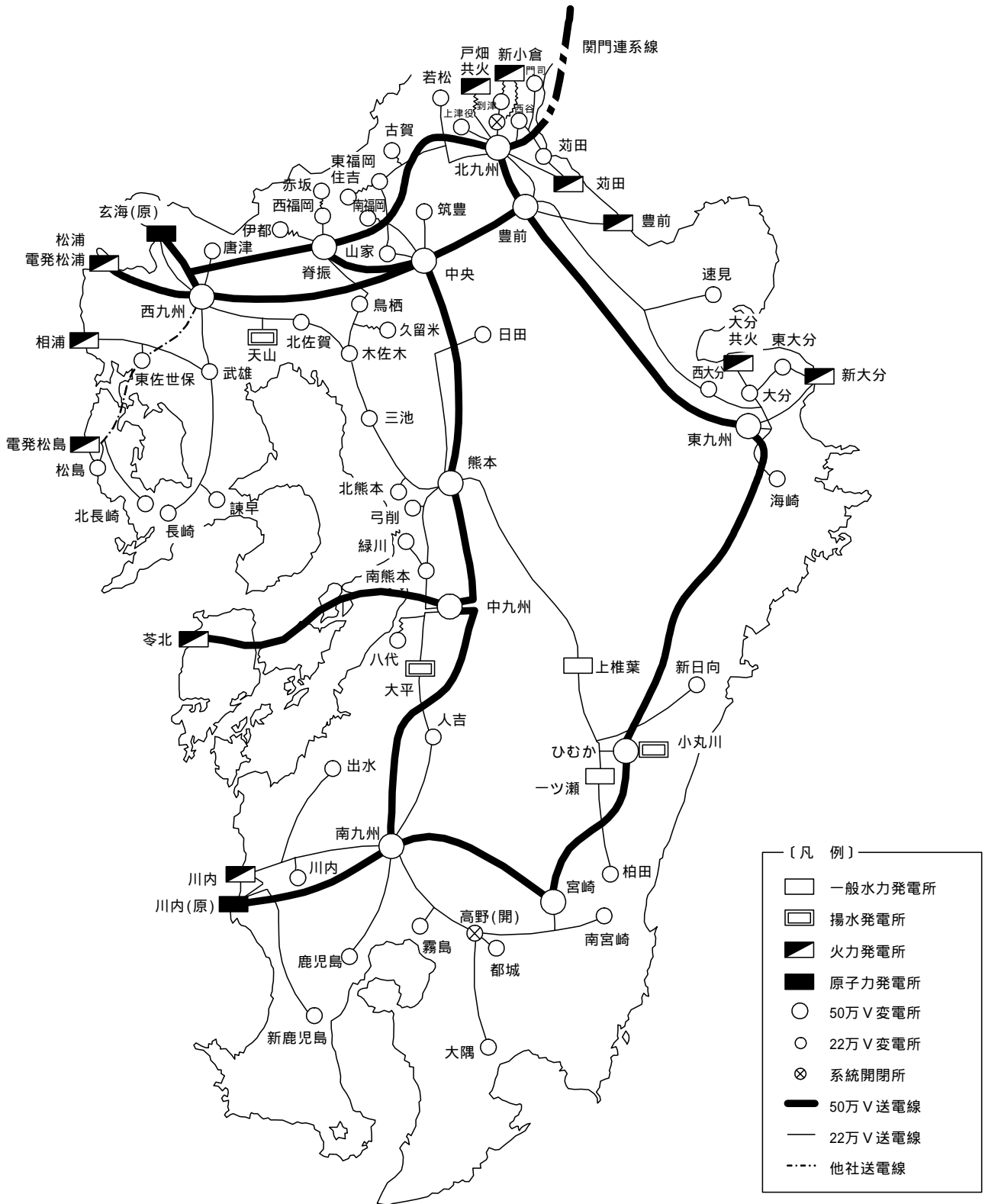
## 〔主要送電設備計画〕

区 分	線 路 名	工事概要		工 期		工 事 理 由
		電圧 (万V)	巨長 (km)	着 工	運 開	
工事中	日向幹線	50	124	H26年11月	H31年6月	九州北部~南部50万V系統ルート事故対策(2ルート化)(新設)
	脊振伊都線	22	20	H24年6月	H27年6月	福岡西部・糸島地区需要対策(新設)
	弓削分岐線	22	1	H26年10月	H28年6月	老朽対策、熊本東部地区需要対策(新設)
着 工 準 備 中	ひむかーつ瀬線	22	3	H28年1月	H30年6月	宮崎中央部地区供給信頼度対策(増強)
	新鹿児島線 川内原子力発電所引込	22	5	H29年5月	H32年3月	川内原子力発電所外部電源の信頼性確保対策(新設)

## 〔主要変電設備計画〕

区 分	変 電 所 名	工事概要		工 期		工 事 理 由
		電圧 (万V)	容量 (万kVA)	着 工	運 開	
工事中	東九州変電所	50/22	150	H26年9月	H28年6月	新大分3号系列第4軸輸送対策(増強)
	弓削変電所	22/11/6.6	30/15/25	H23年9月	H28年6月	老朽対策、熊本東部地区需要対策(昇圧)
	伊都変電所	22/6.6	60	H25年11月	H27年6月	福岡西部・糸島地区需要対策(新設)
	大分変電所	22/6.6	30	H26年2月	H27年6月	老朽対策(増強)

[ 基幹系統計画 (平成 36 年度末) ]



(参考) 再生可能エネルギーへの取組み

- 当社は、国産エネルギーの有効活用、並びに地球温暖化対策面で優れた電源であることから、太陽光・風力・バイオマス・水力・地熱などの再生可能エネルギー（以下、再エネ）のグループ一体となった開発や地域社会との共同による開発推進など、積極的な開発、導入を推進しております。
- 今後とも、電力の安定供給を前提に、各種再エネ電源の特徴を活かしながら、バランスの取れた再エネの開発、導入に取り組んでまいります。

[再生可能エネルギー発電設備](当社およびグループ会社(下表の 印)の設備量)

・既設合計164万kW、計画合計8万kW

[平成27年3月末時点]

太陽光発電

(kW)

発電所	既 設 (40,439)					計 画 (7,780)	
	カソーラ 大牟田	事業所等 への設置	大村 カソーラ	佐世保 カソーラ	その他 カソーラ	事業所等 への設置	その他 カソーラ
出力	3,000	約2,700	13,500	10,000	11,239	約1,800	5,980

風力発電

(kW)

発電所	既 設 (67,650)						計 画
	甌 島	野間岬 ウインドパーク	黒 島	長 島	奄美大島	鷲尾岳	串 間
出力	250	3,000	10	50,400	1,990	12,000	約60,000

バイオマス発電・廃棄物発電

(kW)

発電所	既 設 (40,550)			
	みやざき バイオサイクル	福岡 クリーンエナジー	苓 北 (140万kW)	松 浦 (70万kW)
燃料	バイオマス (鶏糞)	一般廃棄物	バイオマス混焼 (木質チップ)	バイオマス混焼 (下水汚泥)
出力	11,350	29,200	重量比で最大1%混焼	700 t /年程度

水力発電(揚水除く)

(kW)

発電所	既 設	計 画 (4,015)			
	140箇所	新甲佐 <sup>注1)</sup>	新名音川 <sup>注2)</sup>	中木庭ダム	龍門滝
出力	1,283,681	7,200( 3,900)	370	195	150

注1) 3,900kWは、既設甲佐発電所の廃止分

注2) 既設名音川発電所(65kW)の再開発(名音川発電所はH26年10月廃止)

地熱発電

(kW)

発電所	既 設 (207,960)						計 画 (7,000)	
	大 岳	八丁原	山川 <sup>注1)</sup>	大 霧	滝 上	八丁原 ハイリー	大 岳 <sup>注2)</sup>	菅原 ハイリー
出力	12,500	110,000	25,960	30,000	27,500	2,000	+2,000	5,000

注1) タービン損傷による定格出力変更(H27年1月5日お知らせ済)

注2) +2,000kWは、大岳発電所の発電設備更新に伴う出力増分(H31年12月更新予定)